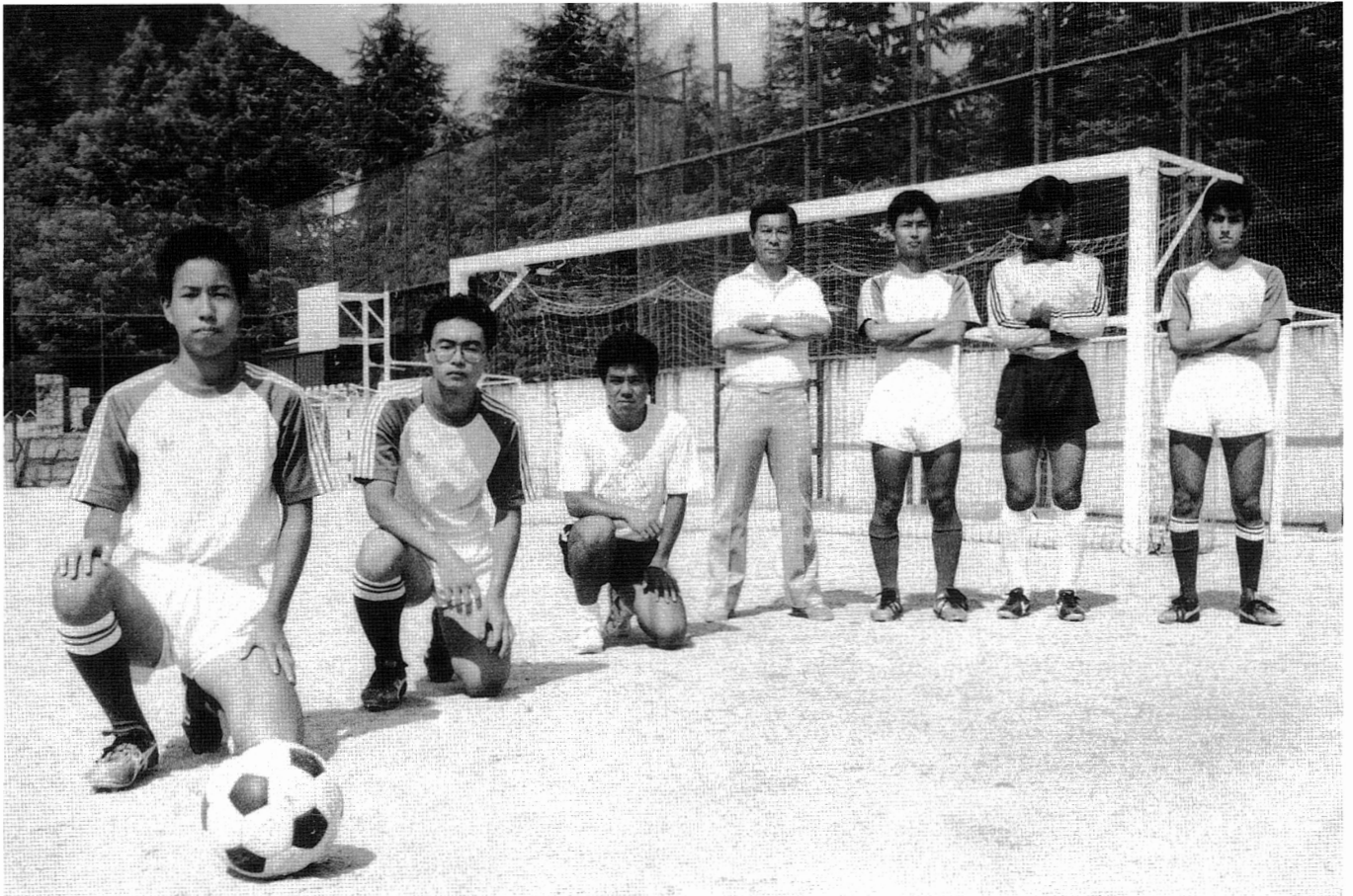




1980-1986

ボコボコになぐられながら 1部リーグ優勝



43期の6年間

今思えば、我々43期は、中1の入部当時、ななんと20数名もいたのがあった。ところが高3の卒業時には、4分の1以下の5人になっていたのである。その43期の精鋭5人の近況を報告する。

キャプテンの宮崎道夫、小幡成雄、森本孝和、池田総司と、そして私高橋邦彦、の5人が最後迄残った面々である。

宮崎は、現在「丸紅」に勤務しており、ついこの間結婚し、東京に住んでいる。

小幡は、大学時代は東京で過ごしたが、現在は、「大阪ガス」に勤務しており、仁川の寮に住んでいる。

森本は、現在九州大学の大学院に在学中で来年からは「千代田化工」に勤務が決まっている。

池田は、大学時代は九州で過ごしたが、現在は、「東急不動産」に勤務しており、埼玉の田舎に住んでいる。

最後に私高橋は、大学時代を大阪で過ごし、現在も「不二製油」に勤務しており、関西新空港で有名な泉佐野の寮に住んでいる。

といった具合に現在5人は、平凡に暮らしているが、六甲学院サッカー部での6年間は、決して平凡では無かつ

た。

主に我々が試合に出始めたのは、中学2年の頃からであった。中2の頃は、私が憶えている限りでは、常に2回戦か3回戦で負けていたはずだ。あまりいい思い出はないと思う。憶えていることといえば、朝鮮学校とやって、相手の半数以上の人間が、中学生にもかかわらず、身長180cm以上あり、とても怖かったことぐらいだ。この時も確か2対1で負けたはずだ。

この頃は、練習中に佃先生によくボコボコになぐられたものだ。皆、誰しも必ず一発は体が覚えているはずだ。

我々も中3になり完全にチームの中心となった中学総体。1回戦前半キー

パー池田のミスもあり2-0。ハーフタイム、佃先生ではなく、あの市川先生に池田がかなりなぐられ、それを見た、この日初めてセンターフォワードに起用された高橋が後半開始3分で2点を取り、あっという間に同点に追いつき、そのままPK戦に。PK戦も5本目高橋が決め、見事な勝利を取めた。2回戦も順当に勝ち、迎えた3回戦、後に神戸高校の核になるというより41期本多さんの弟、やはり本多が率いる本庄中学との試合。試合中みんなの「こける」というかけ声と共にペナルティエリア内で44期佃学が見事にこけてPKをいただき、そのまま1対0で勝利。これは、奇跡に近い勝利であった。こう思ったのは私だけではあるまい。結局準決勝で塩屋中学に敗退してしまったが、この大会で我々は、勝つことの喜びを覚えたのだと思う。節目の大会であった。ちなみに、不幸にもこの大会前に我々43期の本当のセンターフォワード細見真也は、都合により転校してしまっていた。また、この頃のキャプテンは、仁木啓介であった。彼もまた高校1年の終わりか或いは、2年の初め頃にサッカー部を去っていった、といった具合に我々の学年の中心選手は次々と抜けていった。これが我々の悩みの種であった。

そうこうしている内に中3の秋が来て我々は、高校の練習に加わることになった。そしてあっという間に春が来て、試合にも出ることができるようになった。我々の高校の時には、御影高校に「金」「粟井」「ブンヤ」という三羽ガラスがいた。それはそれはすさまじい強さであった。更に北須磨には、中学総体準決勝で敗れた塩屋中学の松井もいた。これら、御影、御影工業、北須磨、赤塚山、甲北等8チームで争う神戸市1部リーグに我々も属していた。この大会が春と秋の年2回あり、その間に総体、選手権、新人戦があったと思う。これらの大会のうち印象に残っているのは、高2の春の神戸市1部リーグである。戦績は、あまり憶えていないが、先に上げた様々な強豪をおさえて、見事に優勝したのである。ただ一つ憶えているのが42期の間中さ

んの長い足が、かなり活躍したはずということである。感謝、感謝。

しかし、リーグ戦は、楽しいことばかりではなかった。悪夢は、高3の春のリーグ戦だったと思う。我々は、1部リーグで成績が悪く、なんと2部との入れ替え戦に出るはめになった。2部からは、八代高校が出てきたはずだ。その試合前半0-0だったと思う。迎えた後半、44期八木から、相手のオフサイドトラップの裏をつく見事なパスが右のウイングの私の足もとに出た。キーパーと1対1。緊張した私はちびってしまって簡単にキーパーに取られてしまった。悪夢はそこから始まった。なんと私がキーパーに取られてから1分後には、点を取られていた。速攻である。あの様な速攻は見たことがなかった。結局その失点が効いて、1対0で負け、我々は、2部に転落してしまった。しかし、次の大会で44期の面々が1部に引き上げてくれたということだ。

そして、もう一試合印象に残っているのが、誰でもそうだと思うが高校最後の試合である。高3の総体1回戦。相手は、強豪「伊丹北」である。センターフォワードには、ストライカーの「クツカケ」がいた。前後半0-0で延長戦に突入した「クツカケ」の素晴らしいヘディングシュートをキーパーの「池田」が横つとびで見事にキャッチした。このキャッチは、今でも、皆で集まれば必ず出てくる話題の一つである。結局この試合は、PK戦で敗れた。スコアは忘れた。といった風に我々は、高校に上がってもあまり強いチームではなかった。

しかし、人数が少ない分、皆仲が良く、会えば今でも必ずあの時の練習がどうだ、あの試合がどうだとワイワイガヤガヤやっている。そして、いつも最後は、あの時佃先生になぐられたのがとても痛かったなあ〜で終わる。それ程佃先生には、ボコボコに可愛がられた。今となっては、とても良い思い出となっている。佃先生が最近やさしくなったと聞きましたが、もっとパンパン派手に暴れてほしいものです。必ずや皆の楽しい思い出になると

思います。それでは、この辺で終わりたいと思います。おつき合い有り難うございました。

[高橋 邦彦]